

(1)

13 県内公立図書館サービス指標(平成23年度)

津	73.3	浦安	13.08	横芝光	13.89	横芝光	822	横芝光	503.5
匝瑳	64.3	横芝光	12.41	袖ヶ浦	10.23	南房総	779	成田	388.1
佐倉	57.8	袖ヶ浦	11.13	白井	8.73	匝瑳	657	南房総	358.0
酒々井	55.5	印西	10.22	成田	7.08	成田	628	匝瑳	319.8
千葉	55.0	成田	9.72	君津	6.57	袖ヶ浦	526	浦安	318.5
木更津	52.1	佐倉	9.43	大多喜	5.06	白井	491	白井	301.1
横芝光	50.4	我孫子	9.36	佐武	4.78	浦安	491	袖ヶ浦	298.7
袖ヶ浦	49.4	我孫子	8.94	佐倉	4.41	香取	452	東庄	254.8
八街	45.4	匝瑳	7.91	八街	4.20	山武	341	香取	243.1
鎌ヶ谷	44.0	野田	7.02	市原	3.78	印西	273	君津	241.7
松戸	43.2	市川	6.65	野田	3.46	東庄	263	山武	237.9
我孫子	42.9	習志野	6.48	富里	3.40	野田	260	印西	180.6
市原	42.1	流山	6.06	四街道	3.38	佐	245	野田	177.5
習志野	40.7	市原	5.97	酒々井	3.36	富里	245	佐倉	187.8
		富里	5.92	我孫子	3.12	酒々井	243	酒々井	165.1
						佐倉	243	四街道	155.7
						四街道	220	富里	137.6
						市川	215	鴨川	134.2
						鴨川	208	我孫子	132.9
						八街	199	八街	132.6

項目	個人貸出 登録率	人口1人あたり				人口1000人 あたり 年間受入冊数	
		個人貸出冊数	蔵書冊数	図書費 (23年度決算)			
県平均 (5,910,253人)	39.7% (2,345,380人)	5.73冊 (33,878,712冊)	3.02冊 (17,846,818冊)	194円 (1,145,063千円)	128.8冊 (761,309冊)		
大多喜	39.6	八千代	5.71	館山	2.95	習志野	124.3
船橋	38.5	柏	5.69	南房総	2.74	流山	123.9
白井	38.1	酒々井	5.58	茂原	2.71	我孫子	123.2
山武	35.8	山武	5.21	流山	2.70	八千代	109.9
富里	35.2	八街	5.13	鎌ヶ谷	2.67	習志野	98.7
東京	34.9	東金	4.60	木更津	2.51	鎌ヶ谷	92.3
市川	33.8	松戸	4.40	八千代	2.46	東金	90.7
印西	33.5	千葉	4.34	柏	2.30	船橋	89.8
野田	33.4	四街道	4.24	船橋	2.29	柏	89.3
成田	31.5	船橋	4.09	東金	2.26	旭	86.5
浦山	31.4	鎌ヶ谷	3.87	市川	2.26	松戸	85.2
流安	29.1	茂原	3.59	千葉	2.24	鏡子	84.7
香取	28.0	木更津	3.36	習志野	2.22	市原	80.6
四街道	27.2	鴨川	2.66	鴨川	2.17	館山	78.9
鏡子	26.0	館山	2.64	勝浦	2.06	木更津	78.0
茂原	25.5	南房総	2.00	鏡子	1.95	大多喜	77.2
八千代	24.4	大多喜	2.00	香取	1.86	千葉	71.5
旭	23.9	香取	1.94	旭	1.42	勝浦	67.1
柏	23.2	鏡子	1.73	松戸	1.18	茂原	67
鴨川	21.3	旭	1.68	東庄	1.17		
勝浦	19.5	勝浦	1.27				
東庄	16.6	東庄	0.89				
館山	16.0						
南房総	15.2						

おし図書館

No.157

発行  
代表  
青木和子  
TEL 047-311-0886  
104-416

(注) 1 複数館ある市町村は、一つにまとめた  
 2 人口の数値は、千葉県毎月常住人口調査月報より(平成24年4月1日現在)  
 3 県平均欄の( )内の数値は、38市町村の合計である  
 4 図書費には、臨時的経費のうち図書費を含む  
 5 個人貸出登録率は累計で、自治体内数か自治体外数を含めるかは自治体による  
 6 個人貸出冊数には、近隣自治体住民に対する貸出冊数が含まれる自治体がある

松戸市 教育費・図書館費の変遷

	(単位 千円)					
	2008(4.20)年度	2009(4.21)年度	2010(4.22)年度	2011(4.23)年度	2012(4.23)年度	前年度との比較
教育費	13,735.525	13,752.731	12,803.556	13,368.550	12,370.891	△ 997.659
教育総務費	2,340.215	2,630.304	2,258.055	2,395.778	2,083.597	△ 312.181
小学校教育費	1,991.033	2,389.735	2,814.287	3,156.691	2,414.645	△ 742.046
中学校費	2,216.363	1,501.010	1,449.584	1,561.057	1,354.305	△ 206.752
高等学校費	805.918	1,002.928	901.781	868.199	1,104.121	235.922
幼稚園費	758.058	786.803	0	—	—	—
社会教育費	2,388.483	2,326.809	2,268.943	2,258.762	2,252.065	△ 6697
保健体育費	3,235.455	3,115.142	3,110.906	3,128.063	3,162.158	34095
図書館費	291.056	290.118	243.096	243.304	249.857	6,553
図書館管理運営事業費	244.129	254.332	238.864	239.622	246.579	6,957
図書等購入費	69,148	69,148	69,148	70,007	71,426	1,419
貸出等管理業務	15,455	15,385	15,404	14,967	16,852	1,885
交付業務	94,204	89,672	91,225	91,929	97,872	5,943
施設維持貸出業務	21,323	26,925	21,060	20,544	18,153	△ 2,391
身体障害者図書管理業務	14,229	21,47	21,33	21,58	21,82	24
講座等行事開催業務	285	285	285	270	308	38
広報業務	50	50	50	50	50	0
情報報化推進業務	42,235	50,720	39,559	39,697	39,736	39
幼児児童・読書普及事業	46,927	35,786	42,32	3682	3,278	△ 404
おは！FLキョロパン事業委託業務	45,972	0	—	—	—	—
読書普及活動業務	955	35,786	42,32	3682	3,278	△ 404
おは！FLフェスティバル補助金	0	—	—	—	—	—
松戸子どもの本ネットワーク	—	—	—	—	—	—

投稿①

講演会

「ふくしまの今、

これからの日本」を聞いて

松原和子

2012年10月21日(日)の堀琴美先生の

お話は、涙があふれました。

単なるデータ説明とは全く異なり、

心づかいがあふれ、静かに淡々と語り聞かせて下さいました。

残酷な昔話よりおそろしい悲しい

無常の日々。「なんもわかんねえ

今もかわんない」と福島弁をまじ

えて説得力のある言葉のもつ力強

さ。あたたかき。敬服しました。

人間同士、あきらめないでしっか

り生きていく。生きることのむず

かしさも、ひしと伝わりました。

「ガレキ」という淋しい響きの

中から、大切なものは何かを捜し、

みつげ、ひろい集める事から……

(3)

とても面倒な毎日。

私たちとの約束を大切にして

下さり、あの福島原発の不気味

な風景を後に被災地の方々の声

を代表して、大きな使命を心に

秘めて、この現実を語り、受け

継ぎ、人が人を滅ぼす原発事故

のこわさを忘れないようにと、

松戸へかけつけて下さった先生。

スーツ姿のまま、後かたづけ

まで共にして下さり、申し訳あ

りません。謙虚さを忘れません。

感謝!



投稿②

内部被曝を生き抜くとは

塩崎俊一

12月15日は、また、忘れられ

ない一日となった。

3日以降初の総選挙という、

戦後日本の方向を決める分水嶺に  
なるかもしれない大一番の前日  
でもあったが、私は午前中に日比谷  
公園に向かっていた。

この日は「さようなら原発世界  
大集会」として、鎌田慧、内橋克  
人、澤地久枝、田中優子さん等の  
呼びかけ賛同人に加え、海外のゲ  
ストも参集するとの事で期待した  
が、余りの人出の少なさを「原発  
国民投票の実施を求める署名も、  
自分が第一号の始末。収穫と言え  
ば、広河隆一さん責任編集のフォ  
ト・ジャーナリズムの月刊誌12月  
号が信頼できる甲狀腺医はどこ  
にいる？」を特集しているのを出  
展ブースで見つけゲットした位。  
小雨降る中、松戸市民会館へと戻  
った。そして――

鎌中ひとみ監督作品は、2006年の  
「六ヶ所村ラプソディー」などは  
4回も観ているし、6月には「ミ  
ツバチの羽音と地球の回転」を市

民劇場の上映会で見てきた。この監督の原亮に関わるエネルギーや放射能汚染問題へのあくなき追求を市民目線で作り上げて行くタフな力量に、得がたい稀有な人として敬意を表している。

さて、この日は、彼女の「内部被ばくを生きた抜くしを例会参加メンバーと鑑賞して、みんなが感想を話し合った。

この作品には、4人の医師が主演的に登場する。広島原爆の生き残りの肥田舜太郎医師(75歳)それにあの鎌田實さん、そして福島現場で透徹した目で動き発信する児玉龍彦氏、最後にチエルノブイリで臨床医として45年の小児科医スモルニコワ、バレンチナ氏である。

映画は、3.11以降の家族の継続取材に、この4人の専門的体験的証言がはさまれる。とりわけ、広島での被爆以来、一貫して被爆者医

療に尽かして来た肥田さんの警告と提言は重かった。要するに放射能による内部被ばくとあらゆる疾患を関係づける知識を持つた医者は、日本には殆ど皆無であり、蓄積される内部被ばくから生まれる症状はこれからである事。それは、チエルノブイリの事故後5年目位からの甲状腺他の疾患の急上昇をみると判る。

ホットスポットである東葛地域に居住する私達は、どう生き抜くのか。先般、流山での講演会で肥田氏は言う。「医者に行っても仕方ない。毎日の生き方だ。何を食べるかでなく、どう食べるかだ」と。

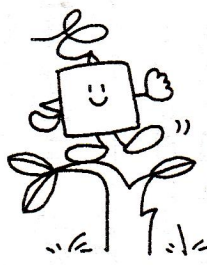
私は強く思う。図書館の在り方を探求して来た者達こそ、マスメディアに誘導されない・真実を地域で情報発信する「コミニティー・リテラシー」が、

今ほど求められるトキはないと。

お知らせ

来る2月9日(土)14時、子ども読書推進センターにおいて、常世田良さんの講演会が松戸市主催で開催されます。

皆様、お誘い合わせの上、どうぞ、お出かけ下さい!!



■市民講座「図書館が日本を救う」図書館の可能性」  
2月9日(土)14時~16時 会場子ども読書推進センター 講師元浦安市立中央図書館館長・常世田良氏 定員先着80人 費用無料  
■往復ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号を記入して、〒271-0092松戸市松戸2060市立図書館市民講座係(☎365・5115)へ